



情報通

2016.June 6月号

発行：東京税理士会 情報システム委員会
 題字：神津 信一 (四谷)
 (税理士会員章の日輪と八重桜をイメージしています。)

税理士事務所におけるクラウド時代とは

情報システム委員会委員 杉山 靖彦

古くはFAX、パソコン、そして携帯電話の導入によって、税理士事務所における仕事の進め方は、技術の発展、新しい情報通信端末の普及とともに大きく変化してきました。そして今度は、クラウドがまた大きく税理士事務所の仕事の進め方を変えようとしていることにお気づきでしょうか？

経営コンサルタントの大前研一氏は、クラウドについて「3つのクラウド」の時代が到来したことを認識、理解しなければならないだろうと述べています。3つのクラウドとは、「クラウドコンピューティング」、「クラウドソーシング」、そして「クラウドファンディング」のことです。

1. 「クラウドコンピューティング」のメリット

税理士事務所では、まだ税務会計ソフトをパッケージで購入し、インストールしたハードウェアを設置するのが一般的です。しかし、時代は今や、ハードウェアやソフトウェアは、クラウドの中（ネット上）で提供されている「クラウドコンピューティング」のサービスによって、いつでも、必要な時に、全機能を安価に利用することができるようになろうとしています。

これによって、例えば設立間もない、資金力のない事務所であったとしても、大手事務所と同等のソフトウェアの全機能を必要な時に、安価に、いつでも使うことができるようになり、競争力を高めることができます。

また、「クラウドコンピューティング」の環境においては、セキュリティ対策、防災対策も同時に進めることができます。

「クラウドコンピューティング」では、ソフトウェアの利用だけでなくデータもクラウド上で保管、管理することになりますので、マイナンバーの導入によって高まっている税理士事務所における情報管理責任についても、その一部をクラウド環境管理している事業者に移管させることによって、一部緩和させることができるようになります。

今年4月に熊本大地震が発生し、地元の税理士事務所においても、大きな被害が発生したことが予想されます。東日本大震災から学び、防災対策は進んでいたのか心配されるところではありますが、皆様の事務所ではいかがでしょうか？

「クラウドコンピューティング」においては、基本的には事務所内にサーバーやデータを置かず、堅牢な遠隔地、場合によっては海外のデータセンター内にあるサーバー環境において運用します。そのため、たとえ事務所が被災したとしても、重要なデータは被災することがありません。

2. 「クラウドソーシング」の問題点

話は変わって、ここ数年、都市部において人材確保がだんだんと困難になってきており、税理士事務所でもその悩みが表面化してきているように見受けられます。一方、地方においては、高質な仕事の流出及び人口減少というスパイラルに陥り、地域経済が立ち行かなくなりつつあるという二極分化が進んでいます。

そこで、このギャップを埋めるために、インターネットの黎明期から、地方にサテライトオフィスを構えて仕事をするという働き方が、国をあげて提唱されてきました。

平成26年11月には、地方創生担当の小泉進次郎政務官が、徳島県神山町に派遣された政府関係者や経済団体の代表者らとテレビ会議に臨み、テレワークの課題洗い出しを行っていたり、政府だけでなく民間でも、10万社のクライアント、80万人の登録ユーザー数を持つ日本最大級の「クラウドソーシング」の企業であるクラウドワークス社は、地方と職を結びつける試みを積極的に展開しています。

「クラウドソーシング」も、「クラウドコンピューティング」と同様に、必要な時に、必要な人材を、安価に調達できるというメリットがあり、税理士事務所においても、繁忙期だけこの「クラウドソーシング」を活用するという道が既に開かれています。

注目すべきは、「クラウドソーシング」が単に都市部と地方という日本国内に限った仕組みではないという点です。一部会計事務所においては、業務の一部を外国で処理していたり、そのサービス（機能）を外部の税理士事務所にも提供しているという話を耳にしています。

つまり、日本の税理士法の及ばない国外においても、「クラウドソーシング」においては、サービスの提供が可能になっているという事実があるのです。

3つ目の「クラウドファンディング」は、資金調達のお話なので、税理士事務所においてはあまり関係ないかもしれませんが、事業資金ですら銀行からお金を借りるのではなく、クラウドを使って調達する時代になってきています。

3. すぐにできるクラウド環境

続いて、現在構築可能なクラウド環境について具体的に解説していきたいと思えます。

クラウド事業者からは、通常のWindowsやWindows Serverが動作する環境も用意されていますので、事務所内で動作している環境をそのまま移行させることができます。

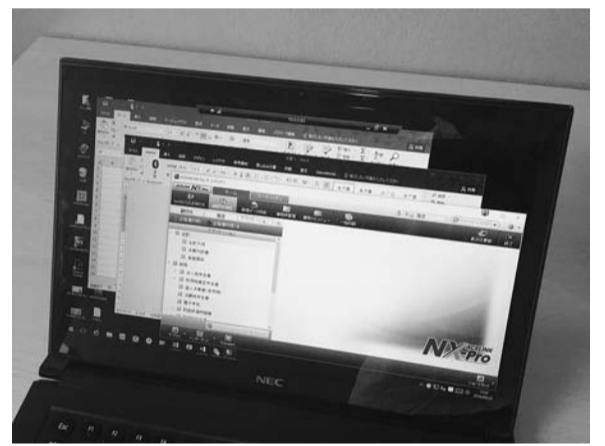
そして、Windowsの標準機能であるリモートデスクトップ、リモートアプリケ

ーションという機能を利用することによって、Windowsクライアントだけでなく、MacやiPhone、iPad、Androidの端末において、Windowsで動作しているソフトウェアやデータを利用することができるようになっています。

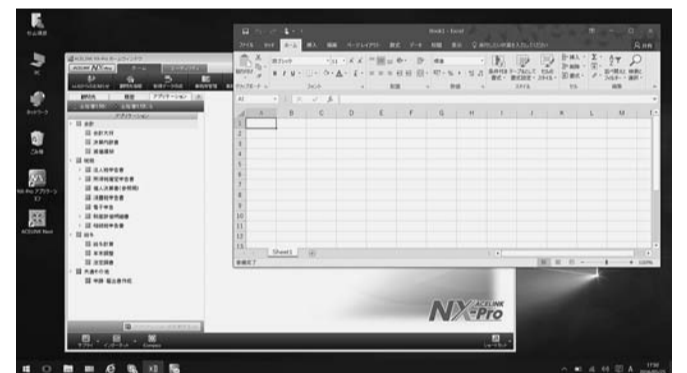
税理士事務所にとって重要な電子申告も、Windowsのノートパソコンやタブレットを用いれば、どこでもできるような環境を構築することもさほど難しいことではありません。

こうなってくると、携帯電話の普及によって、いつでも、どこでも顧問先からの連絡に対応できるようになったのと同様に、いつでも、どこでも、どのような情報端末でも税務会計データにアクセスし、閲覧するだけでなく、処理すら可能になってくることになっているのです。

逆に言えば、このような環境の構築ができるからこそ、「クラウドコンピューティング」と「クラウドソーシング」が可能になってきているのです。



【図1】
手もとのWindows端末で、クラウド上にあるWindowsをリモートで操作することができるリモートデスクトップ



【図2】
リモートアプリケーションを使うと、遠隔地であったとしても、あたかもその端末でアプリケーションが動作しているかのように操作できる



【図3】
iPadの中でWindowsが動作しているのではなく、クラウド上で動作しているWindowsをリモートでiPadから操作

まとめ

税理士事務所におけるクラウド時代とは、全世界レベルで、いつでも、どこでも、必要な時に、可能な方法（情報端末）で、すべての情報にアクセスでき、しかもその情報を共有することによって、外部リソースを活用して処理できる時代だと考えています。

これらは未来のお話ではなく、すべて技術的に既に可能なお話ばかりです。このような時代において、税理士事務所の仕事の進め方はまた大きく変わっていくのではないのでしょうか？